

# 菅茶山顕彰会会報

第 7 号  
発 行

菅茶山先生  
遺芳顕彰会  
1995年11月30日



菅茶山詩碑 「西福寺賞梅」  
(在 神辺町川北 普門山西福寺境内)

## 歴史は、忘却されてはならない

菅茶山先生遺芳顕彰会

会 長 高 橋 令 之

最近、菅茶山先生についての関心と理解は逐次高まりつつある。とはいふものの、まだまだ薄いように思える。

茶山先生の眠られるお墓がどこにあるかを知らない人も多い。また、天下の著名な文人墨客が数多く往来した当時の面影を、そのままに残している廉塾の存在を承知している人も少ない。さらに、茶山先生の学者とし、詩人とし、教育者としての偉大な存在性についての理解と認識もきわめて薄いように思える。

茶山先生没後百六十有余年の歳月が流れ、千変万化の世相をくぐってきた現実として、いたし方のないことである。

しかし、歴史というものは、将来に生かされていかねばならない。歴史は忘却されてはならない。歴史は記憶されるよう努めていくことが大切である。

今日まで、行政においても、また、菅茶山先生遺芳顕彰会、研究グループ、個人研究の諸活動を通して、茶山先生の遺徳の顕彰活動が進められて来ている。

幸い平成八年は、茶山先生没後百七十回忌にあたり、百七十年祭のいとなまれる年である。これに加えて、神辺町においては、町民待望の文化会館の落成、開館の年でもある。こうした機に、町政を挙げ、町民こそって、郷土の偉人菅茶山先生の御遺徳の顕彰を推進し、併せて、古い歴史と勝れた伝統をもつ神辺の文化活動に点火し、文化の町神辺の実現に燃えさかったいかせたいものである。